

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 蓬愛会
施設名	ナーサリーにここ
報告者（役職）	笹沼宏子（園長）
住所・連絡先	栃木県宇都宮市砥上町 5 4 - 1
	☎ 028-647-1125
	E-mail Nikoko0001@yahoo.co.jp

○タイトル（保育計画）

室内用遊具を使って施設内での世代間交流

○主な助成備品

- ・木製ベビーリーフジム
- ・折りたたみマット
- ・ボールプール・ボール

1. 保育計画策定の目的

当園は2017年に地域密着型小規模保育園として定員数19名で設立しました。敷地内には3つの老人福祉施設があり、施設内はもちろん、園庭に出た際、散歩中の高齢者と挨拶を交わしたり、話をしたりして過ごしています。近年、核家族化が進み、子どもたちはおじいちゃんやおばあちゃんと会う機会が少なくなると共に、高齢者の方も小さなお子さんやお孫さんとの接点が少なくなりつつありますが、施設内に老人福祉施設があることにより、日常的に子どもと高齢者が関わりあえる環境を持つことができます。一年を通し、手づくりのプレゼントの交換をしたり、絵本や紙芝居の読み聞かせに来てくれたり、互いの行事の際に参加し交流を行っています。しかし、認知症や車椅子の方とももっと交流できるよう、同じ施設内にあるホールを利用し、室内遊びのスペースとして整え、子どもたちの遊ぶ姿や子どもたちとの会話を楽しむことにより、高齢者にとって活力となるよう、また、子どもたちには見守ってもらっているという、安心感が味わえるような世代間交流の充実した環境作りをしたいと考えています。

2. 具体的な実施内容

【木製ベビーリーフジム】

ベビーリーフジムとマットを持って敷地内の施設の高齢者と遊びました。子どもたちが階段を登ったり、滑り台を滑る時に手を添えて安全に遊べるよう見守っ

てくれたり、言葉を交わしたり、ハイタッチをして笑顔で交流を楽しむことができました。このような機会を設けることにより、認知症の方は表情がやわらぎ笑顔になる姿が見られました。また、回を重ねるごとに子どもたちが訪れることを楽しみに待っていてくれ、子どもたちの姿が見えると表情に明るさが現れた方もいました。子どもたちも初めは緊張した様子で、手を差し伸べてくれる高齢者に無表情でしたが、遊び始めると次第に声が出始め、「おいで、おいで滑って大丈夫だよ」という言葉に「ヤッホー！」「行くよ～」と言葉のやり取りができるようになりました。



【ボールプール】

ボールプールを囲むように子どもたちの所に集まって来てくれた高齢者の方々は、子どもたちが元気に遊ぶ姿を笑顔で見守って優しくボールを渡してくれます。子どもたちも「何色が好き？」「あげる！」などと会話を楽しみながら、子どもたちだけで遊ぶときとまた違った遊びの発展がありました。





3. その成果と評価

ボールプールとベビージムは雨天の日や戸外に出かけられない時など、室内遊びとしては最適で運動量が多く、時には夢中になって汗をかきながら遊んでいます。高齢者とは以前から交流はあったものの、この機会を通してより関わりが深くなり、互いに緊張感がなくなり、リラックスして時間を過ごすことができるようになりました。

また、高齢者の方も車椅子に座りただ見ているだけだった方も、身乗り出して、子どもたちの遊んでいるところへ移動して、ボールを拾おうとしたり、子どもたちのはしゃぐ声を聞き、微笑みを浮かべ柔らいだ表情になる方もおり、この遊具を取り入れた遊びによる効果の表れではないかと思います。

4. 今後の課題と展望

高齢者の方の中には子どもが苦手な方もいますが、子どもたちが遊んでいる姿を見ているだけで、険しい表情が和らいだり、無口だった方が、子どもたちには話しかけたりする様子を見ると、この効果は素晴らしいものであることがわかります。これからも世代間交流の機会を多く設けていき、お互いにとってより良い環境作りをしていきたいと思っています。

